

令和5年度 研究推進計画

1 はじめに

平成29年3月に、文部科学省は小学校学習指導要領の改訂を行った。今回の改訂は、未来の社会を切り拓くための資質・能力を確実に育成すること、知識の理解の質を高め、確かな学力を育成すること、豊かな心や健やかな体を育成することを基本的なねらいとしている。そのために、資質・能力の明確化、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進、及び組織的かつ計画的に教育活動の質を向上させること等が求められている。学習の内容と方法の両方を重視し、「何ができるようになるか」を明確にしながら、「何を学ぶのか」という学習内容と、「どのように学ぶのか」という学びの過程を大切にし、その質を保障するためのカリキュラム・マネジメントの充実が期待されている。

2 研究概要

(1) 研究主題

地域の未来を見据え、探究的に学習する児童の育成
～「経験単元」の開発・実践と評価の工夫を通して～

(2) 主題設定の理由

近年、生産年齢人口の減少や、絶え間ない技術革新により社会構造が大きく変化している中、新型コロナウイルスの感染拡大など予測困難な時代を迎えようとしている。これからの未来の担い手である子どもたちには、様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して多様な情報の中から、情報を取捨選択し、新たな価値につなげて課題を解決していくことが求められている。

本校の児童は、素直で、目標に向かって一生懸命取り組むことができる。挨拶や無言での行動、掃除等、当たり前のことを当たり前に行おうとする意識や習慣も身に付いてきている。甲山中学校区の連携をもとに、目指す資質・能力を「自発性、コミュニケーション能力」と設定し、組織的にこれらの育成をめざしている。

令和4年度は、生活科、総合的な学習の時間を中心に、経験単元の開発に取り組んだ。「教師が忙しい授業」から「児童が忙しい授業」へ、児童の「解決したい」という思いを高める工夫について研究を進めた。「自発性」の一つである学びの調整力を高めるために、計画シートを児童主体で作成し、活動の見直しをもって軌道修正しながら進めていく工夫に取り組んだ。各教科でも探究の過程を身に付けさせるため、授業で学習アイコンを使い、学習の流れを見える化したり、児童と共に授業をデザインしたりし、児童主体の学習展開となるように授業改善に取り組んだ。また、コミュニケーション能力の育成を目指し、国語科と結びつけて話す・聞く・話し合うシートを作成し、児童が当該学年でどのようなスキルを身に付ければよいのかを具体的に示した。これにより、児童が自分たちで話し合いを進めていく力が身に付いてきている。令和4年度の探究的な学習に関わるアンケートでは、次のような回答が見られた。

「総合的な学習の時間」及び「生活科」の授業では、自分で課題を見つけ、解決するために調べたり、まとめたり、発表したりすることを意識していますか。

肯定的回答…89% (7月評価) 91% (12月評価)

以前に比べ、自分でやりたいという気持ちは高まりましたか。

肯定的評価…91% (7月評価) 99% (12月評価)

以前に比べ、自分自身のコミュニケーション能力は高まりましたか。

肯定的評価…92% (7月評価) 91% (12月評価)

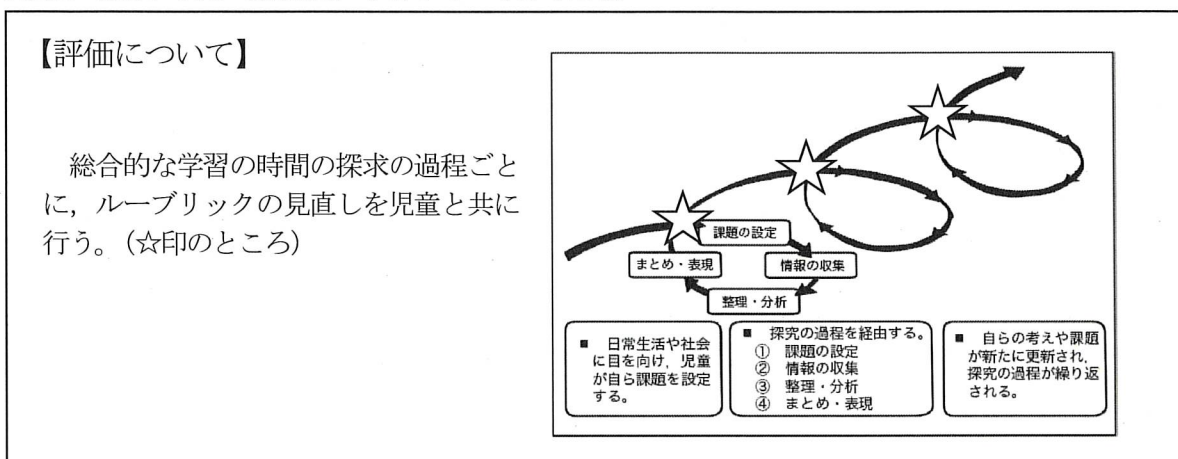
アンケート結果から、児童の肯定的評価は高い。しかし、教師の見取る児童の姿と児童の評価とのずれがあり、児童の意欲は高いが探究のサイクルを自ら回していくスキルは、身に付いていない現状がある。授業者が探究の過程を意識していても、具体的な指導に落とし込めていないという課題があると考えられる。

また、目指す児童の姿を示すルーブリックについて、児童の言葉で示すなどの改善に取り組んできてはいるが、活用は不十分であり、児童が自分の成長を振り返るものには至っていない。

これらの課題を受けて、研究主題を「地域の未来を見据え、探究的に学習する児童の育成～「経験単元」の開発・実践と評価の工夫を通して～」と設定した。生活科・総合的な学習の時間の本質的な問いを「世羅町をもっと元気にするためには」とし、児童が自ら持ち合わせている知識・技能では解決できない「地域社会の身近で切実な問題」を課題として設定し探究する。学習した成果を地域社会に還元する学習展開を仕組むことで、児童が実社会の課題を解決し新たな価値を創造するという学習体験を実感させる。また、学習活動の内容に合わせて、児童と共にルーブリックを作成・見直しをすることで単元のゴールを明確にするとともに、児童の学びを自発的なものとする。その際に、活動に取り組めたが何を学んだか分からないといった「活動あって学びなし」にならないように、教科の知識や見方・考え方を活用するために、資質・能力の育成に関わる年間指導計画を作成し、年間指導計画を基に基礎的な学力の習得も含めて探究的な学びを推進していく。

授業者の指導方針を「信頼して、任せて、待って、支える」(令和3年度個別最適な学びについて語る会 熊本大学教育学部 准教授 菅野一徳先生の講話より「教育の本質」)とし、教師主導の授業ではなく、児童と課題解決の目標を共有し、ファシリテーターとして問いかけにより児童の思考・判断・表現を促す指導を行う。また、個別最適な視点から、個々の児童の進度に合わせ、個人やグループで考えたり、教師に説明を求めたりする学習展開を行う。

このような授業改善を行うことにより、児童は主体的に課題の解決に向かい、協働的に学習しながら新たな価値の創造へ向けて探究的に学習していくと考える。



(3) 資質・能力の育成に関わって

甲山中学校区で育成すべき資質能力である「自発性」を養うために、低学年段階は学級全体で、高学年段階では、小グループごとに学習計画を作成する。高学年以上は、スプレッドシートの協働編集機能を活用することで、課題の解決に向けて、今すべきことを話し合いながら学習を進めたり、自分たちで進捗状況を把握し、実行したりできる力を身に付けさせる。

また、「コミュニケーション能力」の育成に関わって、全ての教科・領域で、ICT機器を活用しながら話し合い、思考を整理したり、自分の考えを伝え合ったりする学習活動に取り組む。話す・聞く・話し合うシートを活用し、各教科で培ったコミュニケーション能力を発揮して、生活科や総合的な学習の時間には地域の人や異年齢の人と必然性のあるコミュニケーションの場を設定し、その際の課題を各教科につなげて横断的に指導していくことで、コミュニケーション能力を高めることができると思う。

(4) 研究主題について

「探究的な学習」とは(平成29年告示の小学校学習指導要領「総合的な学習の時間編」より)

探究的な学習とは、①日常生活や社会に目を向けた時に湧き上がってくる疑問や関心に基づいて、自ら課題を見付け、②そこにある具体的な問題について情報を収集し、③その情報を整理・分析したり、知識や技能に結び付けたり、考えを出し合ったりしながら問題の解決に取り組み、④明らかになった考えや意見をまとめて表現し、そこからまた新たな課題を見付け、さらなる問題の解決を始めるといった学習を発展的に繰り返していくといった物事の本質を探って見極めようとする一連の知的営みのことである。

「経験単元」とは（S26 学習指導要領（試案）より）

単元には、「教材単元」と「経験単元」がある。「教材単元」とは、系統的に配列された教材の一区分であって、たとえば教科書の第1課、第2課というようなまとまり（内容のまとまりが単元）である。経験単元とは、児童生徒の当面している問題を中心にして、その解決に必要な価値ある学習活動のまとまり（活動のまとまりが単元）である。

（5）カリキュラム・マネジメントの視点から

各教科の教育内容を相互の関係でとらえ、学校教育目標である「夢や目標をもち、主体的に学び続ける児童の育成」を目指し、カリキュラムマネジメントの視点から年間指導計画を作成し、教科横断的な視点で「自発性」と「コミュニケーション能力」を育成していく。地域の人的・物的資源を活用しながら学習を進め、PDCAサイクルで児童の姿や地域の現状に合わせた学習を行っていく。

3 研究仮説

- ・実生活との関連や児童の経験の連続的な成長を重視した授業づくりに取り組むことで、児童が探究的に学習をし、学ぶ姿勢の高まりと共に資質・能力、学力の向上がみられるであろう。
- ・単元計画やルーブリックを児童が作成し、児童と見直し改善していくことで自ら課題を見付け、自らの学習の進捗管理をしていく「自発性」が養われるであろう。
- ・校内にとどまらず地域社会の人と必然性のあるコミュニケーションの場を設定することで、コミュニケーション能力の育成につながるであろう。

4 研究内容

- （1）資質・能力を柱とした全教育課程の見直しと実践
- （2）資質・能力を育成する経験単元の開発
- （3）ルーブリックの工夫・改善と活用

5 研究の方法

- （1）理論研修
 - ・経験単元の授業づくりについて
 - ・ルーブリックを活用した評価・改善について
- （2）授業研究
 - ・生活科、総合的な学習の時間の研究授業
 - ・各教科におけるプロジェクト型学習

6 評価指標

- （1）標準学力調査の通過率が全国平均を上回った児童の割合
- （2）探究的な学習の在り方に関する児童実態調査の肯定的評価の割合
- （3）探究的な学習の在り方に関する教職員の实態調査の肯定的評価の割合
- （4）教職員の見取りによるB評価を達成している児童の割合

7 具体的構想

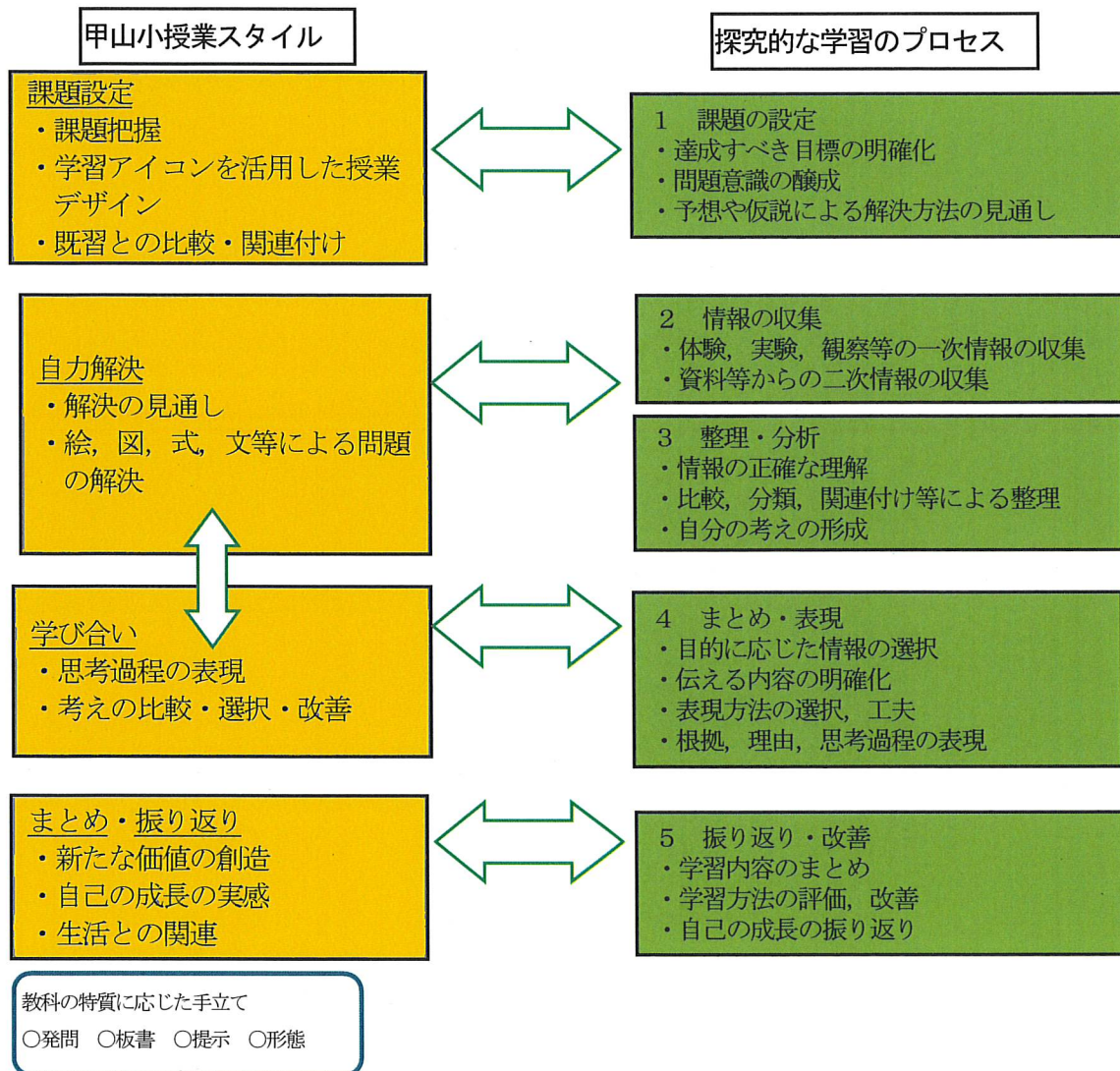
- （1）日常の授業改善
 - ①安心して生活できる学習集団の育成
 - ②対話を意識した授業づくり（ペア・グループなど）
 - ③授業者間の授業イメージの共有（信頼して、任せて、待って、支える）
 - ④学習者主体の授業（学習アイコンでの授業デザイン・子どもが忙しい授業・焦点化した発問と思考ツールの活用）

- ⑤授業者と児童の授業イメージの共有（単元計画・ルーブリックの作成）
- ⑥児童の自信につながる評価活動（ルーブリック・記述に対するフィードバック）

(2) ICT 機器の活用

- ① Chromebook を活用した調べ学習。
- ②Google work space による情報の収集, 整理, まとめ, 表現。
- ③Google work space を活用した専門家, 異年齢, 他校との交流。
- ④Google work space を活用した学習計画づくりとルーブリックづくり。

(3) 授業モデル



8 年間指導計画

期 日			教科・領域	研修内容
4	5	火	研究	Chromebook の使い方 Googleclassroom について
4	13	水	研究	児童実態交流 探究的な学習の推進に関わって 総合的な学習の時間の内容確認

5	10	火		運動会予行反省
5	11	水		個人研修（指導案作成 6/15分） サービス研修
5	18	水	探究的な学習	シミュレーション授業【6/15に向けて】
5	25	水	研究	③④（第 学年以外の授業参観） ⑤研究授業【5年生 総合的な学習の時間】 講師：広島県東部教育事務所指導主事（未定） 世羅町教育委員会指導主事
6	1	水	探究的な学習	シミュレーション授業【6/15に向けて】
6	8	水	探究的な学習	シミュレーション授業【6/15に向けて】
6	15	水	研究	②③④（第 学年以外の授業参観） ⑤研究授業【 年生】 講師：信州大学学術研究院教育学系 准教授 佐藤 和紀先生 世羅町教育委員会 指導主事（未定）
6	22	水	研究	校内研究授業準備（6/30）
6	30	木	研究	③④（第 学年以外の授業参観） ⑤研究授業【 年生】 講師： 東部教育事務所指導主事 世羅町教育委員会指導主事
7	6	水		成績処理
7	13	水	探究的な学習	カリキュラム・マネジメントに関わって サービス研修
8	3	水	研究	個人研修 10/17 指導案作成
8	4	木	研究	個人研修 10/17 指導案完成
8	5	金	情報活用	ICT研修 サービス研修
8	22	月		甲山教育研究会全体研修会
8	24	水	研究	シミュレーション【1・2年 10/17に向けて】
8	24	火	研究	シミュレーション【3・4年 10/17に向けて】
8	25	水	研究	シミュレーション【5・6年 10/17に向けて】
8	26	金	研究	シミュレーション【ひまわり・たんぽぽ 9/14に向けて】
8	29	月		学習発表会台本検討 サービス研修
8	31	水		個人研修
9	7	水	情報活用	ICT研修
9	14	水	特別支援教育	個に応じた特別支援のあり方 講師： 広島県立教育センター _____ 先生
9	28	水	研究	世羅町外国語部会 研究授業 ⑤研究授業【6年生】 講師：世羅町教育委員会指導主事（未定） ※世羅町内の外国語担当の先生が参観されます。
10		水		学習発表会予行反省

10	28	水		シュミレーション【11/14に向けて】
11	14	月	研究	甲山校区探究的な学習推進協議会 ⑤研究授業【 年生】 講師：広島県教育員会指導主事（未定） 世羅町教育委員会指導主事（未定）
11	17	木	研究	地域公開研究会 全学年 講師：信州大学学術研究院教育学系 准教授 佐藤 和紀先生 世羅町教育委員会指導主事（未定）
11	30	水		成績処理（1）
12	7	水		部会 服務研修
12	14	水		2学期の反省（各部から）
1	11	水	道徳科	シミュレーション授業【1・3・6年生道徳】
1	18	水	道徳科	シミュレーション授業【2・4・5年生道徳】
2	8	水	道徳科	道徳参観日授業準備
2	15	水		甲山教育研究会 全体会
2	22	水		成績処理（1）
3	1	水		成績処理（2）
3	8	水	研究	来年度に向けての方向性
3	22	水		三部会3学期の反省
3	29	水		3学期の反省（各部より）